

＊

## ニュースレター

＊

2008年 Winter Vol.16 (2008年1月発行) より



### [新しい年を迎え本学会の進むべき道](#)

日本歯科審美学会 副会長 佐藤 孝



### [第18回日本歯科審美学会学術大会開催報告](#)

大会長 寺田善博



### [平成20年度・第19回日本歯科審美学術大会のご案内](#)



### [編集委員会報告](#)

編集委員会 委員長 寺田善博



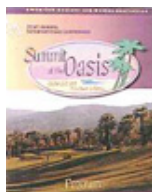
### [セミナー委員会報告](#)

セミナー委員会 委員長 千田 彰



### [国際渉外委員会報告](#)

国際渉外委員会 委員長 中村隆志



### [「第31回ASDA米国歯科審美学会」報告](#)

広報委員会 委員 猪苗代雅俊

### [会則検討委員会報告](#)

会則検討委員会 委員長 長岡英一

### [総務報告](#)

総務担当常任理事 福島正義

### [認定医・認定士審議会報告](#)

認定医・認定士審議会 委員長 末瀬一彦



[ホワイトニングコーディネーター委員会報告](#)

ホワイトニングコーディネーター委員会 委員 椿 智之



[ホワイトニングコーディネーターを取得して](#)

新潟県上越市 折笠歯科医院  
篠宮奈々恵・伊藤明子



[歯科技工士部門報告](#)

歯科技工士部門 常任理事 中込敏夫



[平成19年度 広報委員会報告](#)

広報委員会 委員長 加藤喜郎



2008年 Winter Vol.16 (2008年1月発行) より

## 巻頭言



新しい年を迎え本学会の進むべき道  
日本歯科審美学会 副会長 佐藤 孝

昨今の日本社会は、歯科界のみならず社会構造全体が変化し、超高齢化に始まり少子化社会と、そして医療経済の破綻の危惧により医療費の大幅な制御など、われわれを取り巻く社会に、希望の光を見出すことがむずかしい環境になっているのは確かである。

しかしこのような時こそ本質的なものが求められるのであり、その中に一条の光を見出すべくことがらが必ずや存在するのである。

医療とは本来サイエンスとヒューマニズムを統合したひとつのアートであると云われていて、現在の医療体制ではサイエンスの部分のみが大きく発展し、ヒューマニズムの部分が忘れ去られていると鋭く指摘されている。

確かに歯科医療においてみると、歯周病への対応やインプラントなどの華やかな話題などにみる、サイエンスとしてのアプローチには目をみはるものがある。また数々の新しいテクノロジーやマテリアルにおける進歩も輝かしいものではあるが、その中に患者に対するヒューマニズムの部分が欠落してはいないだろうか。

そこで、審美歯科を単に歯の色や形の問題としてとらえるのではなく、美を通して患者のヒューマニズムの部分にも関与する、全人的な歯科医療としてとらえる必要がある。審美とは健康と機能によって裏打ちされた美を創造し、人々の美意識の向上に、またQOLに寄与するものであり、常に患者の利益を念頭においた歯科医療である。

まさに本学会の進むべき道は、サイエンスとヒューマニズムを統合したアートとしての審美歯科を創造することである。



2008年 Winter Vol.16 (2008年1月発行) より

## 第18回日本歯科審美学会学術大会開催報告書

大会長 寺田善博

メインテーマ「接着と審美」を掲げて第18回日本歯科審美学会学術大会を平成19年11月17日(土)、18日(日)の両日、九州大学医学部百年講堂(写真1)および九州大学同窓会館において開催致しました。

お蔭様で、600名を越す方々のご参加を得て、無事盛会裏に終了することができました。

今回の学術大会は、日本歯科審美学会と日本接着歯学会の合同学術大会として開催されましたので、プログラムも多岐に渡り、当日は、どこの会場も熱気につつまれ、充実した内容であったかと思われま

す。特別講演は、九州大学大学院芸術工学研究院教授の源田悦夫先生に「仮想身体表情と美について」と題してご講演頂きました。会長講演(基調講演)は今回の合同学術大会の提案者でもある田上順次先生に「人々から求められる歯科医療 - 審美とMIの調和 - 」と題してご講演頂きました。シンポジウムIでは「接着技術が変えた歯科審美 - きれいで美しい歯をいつまでも - 」について(写真2)、シンポジウムIIでは「審美歯科治療における審美のクライテリア」について、それぞれ数人の演者にご講演頂き、その後討議が行われました。

また、市民フォーラム「美しい顔で豊かな人生を送るために - 生涯にわたる“歯”の健康づくり - 」を企画し、広く市民の皆様に歯科医療のことを知って頂ける機会を設けました。

両学会の会員による一般演題では、多分野にわたりお申し込みいただき、ポスター発表、口演発表とも熱心なご討議を頂きました。

企業展示会におきましても、学会参加された皆様が足を運んで下さり、常に賑わいがございました。

最後になりましたが、皆様方のご健康、ならびに一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼と御報告とさせていただきます。



(左：写真1 百年講堂、右：写真2 シンポジウム)

2008年 Winter Vol.16 (2008年1月発行) より

## 平成20年度・第19回日本歯科審美学術大会のご案内

**メインテーマ：包括的審美で微笑みを**

日 程：平成20年10月12日(日)・13日(月・祝)  
会 場：日本歯科大学新潟生命歯学部(写真1、2)講堂・アイヴィホール・112番教室  
大会長：加藤喜郎(新潟生命歯学部歯科保存学第2講座教授)  
連絡先：日本歯科大学新潟生命歯学部歯科保存学第2講座  
実行委員長：新海航一 準備委員長：海老原 隆  
〒951-8580 新潟市中央区浜浦町1-8  
TEL：025(267)1500Ext.(332)  
FAX：025(265)7259  
E-mail：yoshirok@ngt.ndu.ac.jp

学会プログラム(予定)：

**10月11日**／12：30～各種委員会、14：00～理事会・評議員会

**10月12～13日**／9：30～会長講演、大会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、海外招待講演、臨床セミナー、市民フォーラム、一般口演、ポスター発表、技工士セッション(特別講演、シンポジウム、一般口演)、衛生士セッション、(特別講演、シンポジウム、DHセミナー、一般口演、ランチョンセミナー)等を企画中である。企業展示会、フリースタイルコーナーも開設する。

ソーシャルイベント：

**役員懇親会**：10月11日：18：00～20：00市内レストラン

**会員懇親会**：10月12日：18：00～20：30市内ホテル(ガラディナー・ブラックタイ・エンタテインメント付)

最新の内容のプログラム(学術・臨床)と酒・肴およびエンタテインメントを準備してお待ちしています。家族、友人とお出かけ下さい！



(左：写真1 新潟生命歯学部講堂、右：写真2 日本歯科大学新潟生命歯学部)



## 編集委員会報告

編集委員会 委員長 寺田善博

前回のニュースレター以降のご報告事項としましては、「歯科審美 第20巻1号」を平成19年9月に発行致しました。これまで検討を進めてきた特集記事の掲載を始めました。「評価・満足度・インフォームドコンセントなど」についての特集記事を3人の先生にお願いし掲載致しました。

平成19年11月30日に今年度第2回編集委員会を開催致しました(写真1, 2)。主な協議事項は、第20巻2号の編集でした。特集については、第20巻2号と21巻1号に「歯のホワイトニング」を取り上げる予定です。これから執筆依頼をしていきたいと思っています。「審美歯科関連の外来紹介」につきましても、これまで6大学に執筆をお願い致しましたが、引き続き各大学に執筆のご依頼をさせて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

以前にも報告致しましたが、第15回学術大会から、講演論文の提出義務づけを廃止し、口演・ポスター発表の演者に事後抄録の提出を義務づけることになりました。この変更により自動的に論文が集まらないこととなりますので、先生方には日本歯科審美学会学術大会で発表された研究につきましては積極的に「歯科審美」に投稿して頂きますようお願い申し上げます。

また、今回投稿規程についても見直すべく検討を進めております。次回以降の理事会等に提案して審議して頂く予定です。

今後とも編集委員会としては紙面充実に努力していきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いする次第です。



(左：写真1、右：写真2)

2008年 Winter Vol.16 (2008年1月発行) より

## セミナー委員会報告

セミナー委員会 委員長 千田 彰

今年度のセミナーは、当初予定した7月の開催が、諸般の事情で実施できなくなり、10月になってから、第1回を開催することになった。10月14日福岡国際会議場において、佐藤 博信委員（福岡歯科大学教授）のコーディネートにより、～オールセラミッククラウンできれいな歯と、きれいな歯肉を～と題して行われた。当日は、ホワイトニングコーディネーターの講習会と資格試験が同会場別室で開催されたが、本セミナーも200名を上回る参加者があり、急遽会場のレイアウトを変えるという事態となった。昨年度に引き続き、コーディネーターの努力と開催地の歯科医師会、大学や歯科衛生士・技工士養成校の全面的な協力があり、成功裡に終了した。とくに今回は、地元九州の歯科技工士の皆様、各協賛企業、そして福岡歯科大学咬合修復学講座の絶大な支援が、セミナー開催の成功をもたらしたものと感謝している。

開催の報告とは少々離れるが、認定医・認定士のための研修機会の一つにセミナーがあげられていて、どのような取組をするかが懸案になっている。この第1回開催当日もテーマがどちらかと言えば、歯科医師や歯科技工士向けであったにもかかわらず、コーディネーター、認定士の研修を目的とした歯科衛生士の受講もあった。今後は、ホワイトニングコーディネーター制度、学会認定医・認定士制度、セミナー、学術大会の間の緊密な連携を図る必要性がある。

今年度は、したがって後半に第2回から第4回のセミナーが集中して開催される。まず1月27日に「ふり返ってみよう！きれいな歯と、きれいな歯肉を」と題して第2回を仙台（ホテル仙台プラザ）で開催する。また3月2日に札幌（北海道 歯科医師会館）、3月16日に名古屋（愛知学院大学楠元手キャンパス）で各々開催する。皆様のセミナー参加、ご支援をお願いします。



写真1 両委員会合同／演者懇親会



## 国際渉外委員会報告

国際渉外委員会 委員長 中村隆志

2007年の最も重要な課題であった韓国と日本の歯科審美学会の姉妹協定が締結されました。これは、2006年の第17回日本歯科審美学会の学術大会（東京）で、IFED会長（当時）で韓国歯科審美学会の元会長であるDr. Seok-Hoon Koが提案されたものを受け実現したものです。韓国と日本の歯科審美学会は以前から協力関係にあり、お互いに学会での特別講演に演者を派遣したり、会員がお互いの学会に参加するなどの活動は行っていましたが、明文化された協定はありませんでした。

今回の姉妹協定のポリシーは、「両学会は、友好、平等、相互理解及び互恵を基本精神とし、相互に相手側学会の制度及び活動方針を尊重する。」ことであり、さらに、両学会が誠意をもって下記の事項の実施に努めることとしております。

1. 相互の学会における招待講演
2. 相互の学会における一般学術発表
3. 共同研究の企画及び推進
4. 学術ならびに歯科医療情報の交換
5. 会員の相互交流

姉妹協定の調印式は、第18回学術大会（九州大学）の会場で11月18日に行いました。韓国側はChang-Joon Yim KAED会長、日本側は田上順次JAED会長が参加して調印をいたしました（写真）。来年の新潟での学術大会では、韓国審美学会の会員も参加が可能な国際セッションを開催する予定です。また、正式に姉妹協定が締結されましたので、日本の会員の方々も韓国の学会へ参加いただけると幸いです。

国際学会の情報として、2008年の5月2-4日にバリ島（Grand Hyatt Bali）でのアジア歯科審美学会の開催をお知らせします。バリ大会のホームページは、[www.gaib-online.com](http://www.gaib-online.com)になっています。こちらは一般口演の演者も募集しています。会員の皆さまの多数の参加を期待しております。



（写真1（左）左から写真1 KAED Yim会長、JAED 田上会長による姉妹協定調印（九州大学医学部、百年記念講堂）。

（写真2（右）調印式後の記念撮影）



2008年 Winter Vol.16 (2008年1月発行) より

### 「第31回ASDA米国歯科審美学会」

広報委員会 委員 猪苗代雅俊

第31回アメリカ歯科審美学会 (ASDA) が2007年10月24日～27日アメリカ カリフォルニア州リバーサイド郡パーム スプリングスで開催された (写真1)。

Palm Springsはロサンゼルスから車で2時間 (約180キロ) ほど内陸に走ったところにある、砂漠に広がるリゾート地。

パームスプリングスまでの道のりにある高さ45メートルの風車群は風力発電のために立てられており、車での旅行者の目を楽しませる。

この一帯には100を超えるゴルフ場が点在し、数多くのトーナメントが開かれ、期間中であれば観戦ができるため、世界のトップ・プレイヤー達のテクニックを見る機会もあり全米の中でもゴルフ天国として有名な街である。また、ネイティブ・アメリカンによって発見された温泉 (Springs) は地名の由来にもなっており、砂漠の真ん中で日本とはまた少し違った雰囲気での入浴が楽しめる。

カリフォルニアの甚大な山火事が報道される中、不安を抱えながら当会監査役の寺川國秀先生はじめ7名の先生方が日本から参加した。

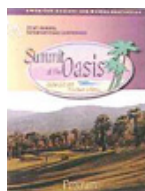
今回はASDAに対する貢献が認められ、渡部圭吾先生 (札幌)、椿智之先生 (東京) が学会よりフェローとして迎え入れられ授与式が行われた (写真2)。両先生には日米の歯科審美学会の架け橋として活躍される事を期待したい。

大会セッションならびにハンズオンワークショップに於いては、数年前の加熱したホワイトニングブームは本場アメリカでもすでに落ち着きをみせている。

それに対し新しいものを追求する方向性から、従来からコンセプトを基本的なところから掘り下げる内容が多く見られた。

ポーセレンラミネートベニアの耐久性の向上に関する基礎的な接着の研鑽であったり、ダイレクトボンディングに関しても基本的なコンセプトをしっかりと打ち出し透過性・形態・色調・特徴描写・歯面の輪郭またコンポジットの選択・積層・シェードの捉え方・フィニッシングポリッシングの詳細なステップ・衛生士によるメンテナンスに関するテクニック注意事項に至るまで、基本的でありながら熟考された発表やハンズオンが多く見られた。

会長のDr. Irwin Smigelのセッションではご自分のニューヨークオフィスでの診療風景がムービーで映された。ご高齢にもかかわらず進歩的な考えを基に熱心に診療されている姿には感動すら覚えるものがあった。



左：写真1  
学会プログラム



右：写真2  
サーティフィケート  
授与式



## 会則検討委員会報告

会則検討委員会 委員長 長岡英一

前回のニュースレターにおいて、第4章（役員）第13条の改定案が5月の常任理事会・理事会で承認されたことを報告しました。改定案では、第1項は会長のみとし、副会長については第1項から削除して第2項を新規に立て、「副会長は、次期会長候補、歯科衛生士、歯科技工士各1名を含み、理事の互選により選出し、評議員の議を経て、総会で承認を得る。」とし、早速、改訂案に基づき、次期会長候補副会長として昭和大学の久光 久教授が選出されました。その際、次期会長候補副会長の選出方法について、委任状の取り扱いを含め、ブラッシュアップを図る必要性が指摘されました。そこで、選出方法は信任投票とし、選出過程の透明化のための細則を設ける案を検討し、委任状の取り扱いにより2案（第1案は委任状で出席ならびに議決に加われるもの、第2案は委任状では出席に加われるが、議決に加われないもの）を作成しました。同時に、第13条第1項の会長の選出方法の一部不備な点を改め、第19条についても次期会長候補副会長選出の細則と整合性が取れるように改めました。9月の常任理事会において第2案が承認されました。

この一連の改訂により、久光次期会長候補が新役員人事案を作成され、11月の学術大会時に開催された理事会／評議員会・総会において次期会長以下新役員人事の承認を一括して得ることができました。

来期は、委員長を新潟大学の福島正義教授にバトンタッチします。会員諸兄姉には、これまでのご協力・ご支援に感謝申し上げます。有り難うございました。

<参考：改訂後の第4章（役員）第13条>

第1項：会長は、別に定める規程により選出された次期会長候補副会長が、その任期満了後に就任する。

第2項：副会長は、次期会長候補、歯科衛生士、歯科技工士各1名を含み、次期会長候補については別に定める規程に則り、それぞれ理事の互選により選出し、評議員会の議を経て、総会で承認を得る。

## 総務報告

総務担当常任理事 福島正義

会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

前回のニュースレターで学会の会員数が2,000名を突破したことをご報告いたしました。その後、半年が経過して平成19年10月末現在で2,619名に増加しました。その規模は日本歯科医学学会専門分科会に属する歯科基礎医学会、日本口腔衛生学会や日本顎関節学会に匹敵するものです。この急速な会員増加は歯科衛生士対象のホワイトニングコーディネーターの認定事業によるものです。そのおかげで歯科衛生士会員数が452名に増え、全会員の1/5を占めるようになりました。この勢いでいきますと3,000名到達も夢ではなさそうです。今後は歯科衛生士向けの学術プログラムの充実や会員の倫理面での行動規範の策定を急ぐ必要があると考えています。

もう1つの朗報は本学会が日本歯科医学学会に新設された認定分科会に認定されたことです。この意義は歯科医学の発展に寄与する歯科審美領域の専門学会として本学会が認知されたということです。学会設立以来、約20年を経て、ようやく、他分野の学会と学術的に肩を並べるところまで来ました。ここに改めて先人の功績に敬意を表するところです。今後は、専門分科会入りをめざして学会誌「歯科審美」の原著論文を年間20編掲載するために投稿をお願いいたします。

今年度の第18回学術大会は寺田善博(九大) 大会長のご尽力により11月17日～18日に福岡にて第26回日本接着歯学会と合同開催されました。基礎研究から臨床まで話題に富む、幅広い発表があり、参加者を十分満足させる内容でした。会期中の総会では新しい会則に基づき次期会長に久光久(昭和大) 先生および4名の副会長が承認され、平成20年度からの新執行部人事、新年度事業案および予算案が承認されました。また、韓国歯科審美学会(KAED)との姉妹協定の調印が田上会長とYim会長の間で取り交わされました。今後もKAEDとの国際交流が活発に行われることとなります。

最後に平成16年8月より3年半、田上会長の下で総務を担当させていただきました。任期中に社会の要請と共に学会の急成長を見ることができたことは望外の喜びです。今後も引き続き学会の発展に微力ながら尽力させていただきますのでご支援をよろしくお願い申し上げます。会員の皆様のさらなる発展を期待しております。



2008年 Winter Vol.16 (2008年1月発行) より

## 認定医・認定士審議会報告

認定医・認定士審議会 委員長 末瀬一彦

平素は日本歯科審美学会認定医・認定士制度運営ならびに審議会に対しまして深いご理解と温かいご協力を賜りまして心より厚く感謝申し上げます。本委員会は、歯科医師6名〈大学教授4名、臨床医2名〉、歯科技工士2名、歯科衛生士2名によって組織され（写真1、2）、認定制度のあり方、申請および更新の書類審査、新規申請者のプレゼンテーション審査、認定講習会開催の企画などの業務を行っています。特に、春季および秋季の年2回の申請時期には、書類審査ならびにプレゼンテーションの審査に対して厳しくもかつ好意的に対応し、それぞれ専門的な立場から慎重に議論させていただいています。平成19年度春季の申請審査に対しまして、認定医5名、認定士2名が合格され、認定医取得者71名、認定士取得者34名〈歯科技工士26名、歯科衛生士8名〉となりました。学会員2,000名に対して、学会として「歯科審美」に対する正しい知識の啓蒙活動や臨床および研究のリーダーとしての役割を演じるにはまだまだ少ない数です。まさに学会を代表してそのミッションにあたる認定医および認定士が必要であることはいうまでもありません。これからの歯科医療においてオールマイティに治療できることはもちろんですが、国民のニーズに応えるべく「専門性」を有していなければなりません。「歯科審美」は補綴・保存領域、歯周領域、矯正領域、口腔外科領域、小児歯科領域などすべての歯科医療に関わる分野です。誰もが「美しい口もと」を願う社会にあって、「歯科審美」は国民にもっとも理解しやすい分野でもあります。

すでに申請資格を有しておられる会員も多く、ぜひとも「歯科審美」を国民に浸透させるためにも申請していただきたくお願い申し上げます。日本歯科審美学会のホームページを閲覧していただければ、「認定医ならびに認定士申請方法について」具体的な例を挙げて説明しています。ぜひともチャレンジしていただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、認定医・認定士制度運営・審査会の委員長を務めさせていただいて2期の任期が過ぎました。本委員会の規程により委員長の座を辞任させていただきますが、これまで本委員会からの発信に傾聴していただき、ご協力を賜りました会員の皆様に厚く御礼申し上げます。また、委員長という立場上、審査時には厳しいご指摘をさせていただきました申請者の皆様には心よりお詫び申し上げます。さらに、田上順次会長はじめ本委員会委員の先生方ならびに口腔保健協会の事務局には未熟な委員長を支え、常に前向きな建設的なご意見をいただき会務運営をスムーズに行っていただきましたことに衷心より感謝申し上げます。

すべての会員の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。これからも「日本歯科審美学会認定ならびに認定士委員会」が益々発展されるよう、会員の皆様方からの積極的なアプローチを祈念しています。



(左 : 写真1 右 : 写真2 )

---

| [Back](#) |

2008年 Winter Vol.16 (2008年1月発行) より

## ホワイトニングコーディネーター委員会報告

ホワイトニングコーディネーター委員会 委員 椿 智之

第4回のホワイトニングコーディネーター（以下WC）講習会、認定試験が、10月14日に福岡国際会議場で行われました（写真1）。当初150名定員の予定でしたが、予想を上回る申し込みがあり、急遽会場を変更して300名の参加者に対応しました。出席した衛生士さんは、今までの講習会と同様、熱心に講義を聴いて試験に臨んでいました。また質疑応答でも活発な質疑が出され、衛生士さんのホワイトニングに対する熱意が伝わってくるようでした。今回の認定試験で200名以上のWCが誕生する予定です（写真2）。

WC委員会の次のミッションは、誕生させたWCの皆さんのスキルアップと資格の活用です。第18回日本歯科審美学会の中で、衛生士セッションが行われたのですが、WC委員会からも永瀬委員が「ホワイトニングコーディネーターの認定資格を活かす！」という題で講演を行いました。一般発表でも、WC資格を取った衛生士さんの発表があったのですが、WCの資格を取ったことで、今まで歯科医院で行っていなかったホワイトニングを院長に自ら提案し、導入することになったというエピソードを聞きましたWCという資格が、そのネームバリューのみならず、衛生士という仕事にやりがいを与え、ひいては歯科医院の活性化に繋がっているということを感じることができました。今後は更なるスキルアップのため、セミナー委員会とも連携し、歯科衛生士向けのセミナーも企画しようと話し合っています。

前回の認定試験までで、すでに1,347名のWCが誕生しています。来年度も全国で4回の開催が予定されていますので、このペースで行けば来年度中には4,000名を超える勢いです。この間、本学会に入会した歯科衛生士の数も400名を超え、今後も衛生士の会員数は増え続けると思われます。昨今不況が伝えられる歯科業界の中で、今歯科衛生士が一番熱いかもしれません。



（左：写真1 講習会会場前にて、右：写真2 認定試験の実施）



2008年 Winter Vol.16 (2008年1月発行) より

## ホワイトニングコーディネーターを取得して

新潟県上越市 折笠歯科医院  
篠宮奈々恵・伊藤明子

資格を取得する以前から、医院でのホワイトニングの取り組みはありました。しかし、恥ずかしながら使用方法を説明する程度で、『何故、白くなるのか?』といった基本的な答えをプロとして説明は出来ませんでした。

自分のスキルアップをはかり、自信を持って患者さんに情報提供したいと思っていたところ、歯科雑誌で日本歯科審美学会ホワイトニングコーディネーターの認定制度が始まると知り、また、田島菜穂子先生の後押しもあって受験する事にしました。

試験当日、雲ひとつない晴天で、晴れ晴れとした気持ちで、試験会場へ向いました。全国から沢山の受験者が集まり、ホワイトニングに対しての意識の高さが伺われ、私達自身、焦りと更なるやる気につながりました。

実際、資格を取得し、今までの説明では不足していることが多く、患者さんに専門的知識を提供出来ていなかった事を痛感しました。

現在では、待合室へホワイトニングに関する説明ポスター並びに認定証を掲示し、患者さんにホワイトニングについて興味を持っていただけるような工夫をしています。

そして私たちは今までのように使用方法の説明だけでなく、カウンセリングやメンテナンス中の管理に自信をもって行なえ、専門的知識をより解りやすく情報提供していけるようになりました。そうすることで、日々の診療に誇りを持って取り組んでいます。

ホワイトニングコーディネーターの資格を取得された皆さん！認定バッヂを身につけ患者さんの審美的な問題や悩みに対して的確にアドバイス出来るような歯科衛生士を目指して頑張ってください。



左：写真1



右：写真2



2008年 Winter Vol.16 (2008年1月発行) より

## 歯科技工士部門報告

歯科技工士部門 常任理事 中込敏夫

上海の歯科商社が企画した講演会の講師として、齊木副会長とともに初冬の上海を訪れました。

講演会のタイトルは「審美歯科 臨床与技巧的審美総合研讨会」、つまり審美的な技工術式に関してのもので、齊木副会長はCAD/CAMを使用した補綴物製作に関して、私は審美的な総義歯の製作に関して発表をさせていただきました。

我々の訪れる一週間前には、上海で大規模なデンタルショーが開催され、関係者に聞いたところでは、やはり審美歯科への関心が大きかったとのこと。そのため、齊木副会長が発表された、ジルコニアを使用したクラウンブリッジやハイブリッドレジンを使用したインプラントの上部構造製作には、大きな関心が寄せられました。また、講演会場は大変な熱気で、講演後、次々と多くの質問が飛び交いました（写真1）。

上海を訪れたのは初めてでしたが、街の近代化はもちろんのこと、人々のエネルギーには圧倒されるものがありました。特に夜景は素晴らしく、講演後に訪れた「新天地」と呼ばれる場所の夜の風景は、何か全く違うものを作り出しそうな大きなエネルギーに満ちあふれている印象を受けました（写真2）。以前、北京や広州には行ったことがありましたが、同じ中国でも全く印象が異なり、まさに東洋と西洋の異種文化の多種多様なものが入り交じることにより、全く新しい存在感を作りだしていることが強く感じられました。

第18回日本歯科審美学会は日本接着歯学会との初の合同学術大会として大成功をおさめました。寺田大会長をはじめとする各関係者のご努力に対し、心より感謝申し上げます。異なる学会が一つになり、学術大会を開催することにより大きなエネルギーを作りだし、また新しい何か、そして存在感を作りだしてゆくのではないかと感じました。我々歯科技工士会員も新たな展開をめざして、エネルギーに活動をしてゆきたいと思えます。



左：写真1 講演会会場



右：写真2 上海の夜景



2008年 Winter Vol.16 (2008年1月発行) より

## 平成19年度 広報委員会報告

広報委員会 委員長 加藤喜郎



日本歯科審美学会の業務の一つにニュースレターの編集がある。今回はVol. 13. 2006 Summer (2006年9月発行) ~Vol. 16. 2008 Winter (2008年1月発行) の編集作業に携わったわけであるが、この発行が我々として最終になるので委員各位に、“広報委員を務めて”と果して一言づつお言葉をいただいで所感を残すこととした。私としては教育や日常診療で忙しい時間を割いて、編集作業に快く協力していただいた先生方に心からの謝意を表したいと思う。

### 広報委員会を努めて



大槻昌幸先生

今年は、ホワイトニングコーディネーター制度実施に伴う歯科衛生士の入会により、会員数が急増しました。日本歯科医学会の分科会として認められ、また、韓国の審美学会と協定を締結するなど、国内外での活動も活発で、本学会中興の年といえます。このような年に、学会運営のお手伝いをできたことを誇りに思います。



新谷明喜先生

日々のコマーシャルに、美しい髪の毛に整えるシャンプー、白い美顔にフェイシャルクリーム、メタボリック防止の飲料剤など体を取りまく審美性を国民に強く訴えています、美しい白い歯、整った歯並び、健康な歯周、お口爽やかなど明眸皓歯としての審美性に役立つQOLの観点から、広報委員を務めていきたいです。



近藤悦子先生

加藤委員長と委員の先生方の穏やかな御人格に助けられて、広報委員を務めさせていただきました。ニュースレターの編集では、加藤委員長の御提案で審美歯科に関する新鮮な情報が提供出来るように心がけて参りました。今後、より充実したニュースレター編集にあたっては、会員の先生方の情報提供をお願い致します。



猪苗代雅俊先生

加藤喜郎広報委員長のもと、ホームページ・ニュースレター等の企画・編集に参加させて頂き、ニュースレターを通して多くの学会会員の皆様にお伝え出来たことをたいへんうれしく思いました。審美学会の広報活動の重要性もいま以上に増してくるものと思われまます。これからも皆様のご協力をお願い致します。



広報委員会委員を拝命して約2年の月日が経ち、今年3月で任期を終えようとしております。この間、ニュー スレターVol. 13~16の4冊の発行に微力ながら携わることができました。過去のニュー スレターを振り返って読んでみますと、日本歯科審美学会が歩んだ活動状況がわかります。会員の皆様も時間のあるときに振り返ってご覧になってください。

---

| [Back](#) |